

クレジット:

Mathematics and Informatics Center 文科系のための線形代数・解析 I
2020 藤堂 眞治・松尾 泰・藤原 毅夫

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



固有値, 固有ベクトルと線形独立, 線形従属

1. 対称行列

行列 A を転置したものを(転置行列)を A' と書き, (ただし, MATLABでは A' と書くので注意.),

各成分の複素共役からなる行列を \bar{A} ($(\bar{A})_{ij} = \bar{A}_{ij}$) と書く.

$A^* = \bar{A}'$ を随伴行列あるいはエルミート共役という.

$$A^* A = A A^*$$

を満たす行列を**正規行列 (normal matrix)**という.

実対称行列 ($(A)_{ij} = (A)_{ji}$), エルミート行列 ($A^* = A$), ユニタリー行列 ($A^* = A^{-1}$) は正規行列である.

行列

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{n1} & \cdots & a_{nn} \end{pmatrix}$$

が実対称行列 (a_{ij} が実数かつ $a_{ij} = a_{ji}$)であるとする.

このとき異なる固有値に対応する固有ベクトルは直交する.

例1

$$A = \begin{pmatrix} 5 & -1 \\ -1 & 5 \end{pmatrix}$$

```
A=[5 -1;-1 5]
```

```
A = 2x2
```

```
5 -1  
-1 5
```

```
eig(A)
```

```
ans = 2x1
```

```
4  
6
```

から固有値は4, 6を得る.

対応する固有ベクトルは

```
[P, D]=eig(A)
```

```
P = 2x2
```

```
-0.7071 -0.7071  
-0.7071 0.7071
```

```
D = 2x2
```

$$\begin{pmatrix} 4 & 0 \\ 0 & 6 \end{pmatrix}$$

から

$$\lambda_1 = 4: \mathbf{x}_1 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$\lambda_2 = 6: \mathbf{x}_2 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

を得る.

ここで注意すべきことは2つの固有ベクトルが直交していることである:

$$\mathbf{x}_1^T \mathbf{x}_2 = 0$$

$$(\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2) = 0$$

このことは一般に成り立つ.

また

$$P = (\mathbf{x}_1 \ \mathbf{x}_2), \quad AP = P \begin{pmatrix} 4 & 0 \\ 0 & 6 \end{pmatrix}$$

である (下で確認) ;

% 固有ベクトルの自然な選択に合わせて, 符号を逆転しておく.

P=-V

P = 2x2

$$\begin{pmatrix} 0.7071 & 0.7071 \\ 0.7071 & -0.7071 \end{pmatrix}$$

A*P

ans = 2x2

$$\begin{pmatrix} 2.8284 & 4.2426 \\ 2.8284 & -4.2426 \end{pmatrix}$$

P*D

ans = 2x2

$$\begin{pmatrix} 2.8284 & 4.2426 \\ 2.8284 & -4.2426 \end{pmatrix}$$

以上から $A = P \begin{pmatrix} 4 & 0 \\ 0 & 6 \end{pmatrix} P^{-1}$ と書ける.

P*D*inv(P)

ans = 2x2

$$\begin{pmatrix} 5 & -1 \\ -1 & 5 \end{pmatrix}$$

2. 非対称行列

非対称行列であっても, 正規行列でないわけではない.

例 $B = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}, BB^* = B^*B$

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & 1 \\ 2 & 0 & 0 \\ 4 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

は正規行列ではない。

$$A = [3 \ 2 \ 1; 2 \ 0 \ 0; 4 \ 2 \ 1]$$

A = 3×3

$$\begin{array}{ccc} 3 & 2 & 1 \\ 2 & 0 & 0 \\ 4 & 2 & 1 \end{array}$$

この行列の特性多項式は

$$\Phi_A(\lambda) = \det(\lambda E - A) = \lambda(\lambda + 1)(\lambda - 5)$$

であるから、固有値は $\lambda_1 = 5$, $\lambda_2 = -1$, $\lambda_3 = 0$ を得る。これから対応する固有ベクトルとして、

$$\lambda_1 = 5, \mathbf{x}_1 = \frac{1}{\sqrt{65}} \begin{pmatrix} -5 \\ -2 \\ -6 \end{pmatrix}$$

$$\lambda_2 = -1, \mathbf{x}_2 = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$\lambda_3 = 0, \mathbf{x}_3 = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}$$

を得る。

$$[P, D] = \text{eig}(A)$$

P = 3×3

$$\begin{array}{ccc} -0.6202 & -0.4472 & -0.0000 \\ -0.2481 & 0.8944 & -0.4472 \\ -0.7442 & 0.0000 & 0.8944 \end{array}$$

D = 3×3

$$\begin{array}{ccc} 5.0000 & 0 & 0 \\ 0 & -1.0000 & 0 \\ 0 & 0 & -0.0000 \end{array}$$

この固有ベクトルは直交していない。

固有ベクトルを並べて

$$P = (\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3) = \begin{pmatrix} -5/\sqrt{65} & -1/\sqrt{5} & 0 \\ -2/\sqrt{65} & 2/\sqrt{5} & -1/\sqrt{5} \\ -6/\sqrt{65} & 0 & 2/\sqrt{5} \end{pmatrix}$$

を得る。当然

$$AP = P \begin{pmatrix} 5 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

が成り立つ.

A*P

```
ans = 3x3
-3.1009    0.4472    0.0000
-1.2403   -0.8944   -0.0000
-3.7210    0.0000     0
```

P*D

```
ans = 3x3
-3.1009    0.4472    0.0000
-1.2403   -0.8944    0.0000
-3.7210   -0.0000   -0.0000
```

pinv=inv(P)

```
pinv = 3x3
-1.0750   -0.5375   -0.2687
-0.7454    0.7454    0.3727
-0.8944   -0.4472    0.8944
```

書き直せば

$$A = PDP^{-1}$$

である.

PDiP=P*D*inv(P)

```
PDiP = 3x3
3.0000    2.0000    1.0000
2.0000   -0.0000   -0.0000
4.0000    2.0000    1.0000
```

この行列Pは**正則行列** (逆行列が定義できる行列, regular matrix)であり,

$$P^{-1} = \begin{pmatrix} -2\sqrt{65}/15 & -\sqrt{65}/15 & -\sqrt{65}/30 \\ -\sqrt{5}/3 & \sqrt{5}/3 & \sqrt{5}/6 \\ -2/\sqrt{5} & -1/\sqrt{5} & 2/\sqrt{5} \end{pmatrix}$$

```
PM1=[-2*sqrt(65)/15 -sqrt(65)/15 -sqrt(65)/30;...
      -sqrt(5)/3 sqrt(5)/3 sqrt(5)/6 ;-2/sqrt(5) -1/sqrt(5) 2/sqrt(5)]
```

である. これから直接

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 5 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

が得られる.

$$A = P \begin{pmatrix} 5 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} P^{-1}$$

3. 線形結合, 線形従属, 線形独立

ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$ に関して,

$$c_1 \mathbf{x}_1 + c_2 \mathbf{x}_2 + \dots + c_n \mathbf{x}_n$$

を線形結合 (1次結合) という.

$$c_1 \mathbf{x}_1 + c_2 \mathbf{x}_2 + \dots + c_n \mathbf{x}_n = \mathbf{0}$$

が自明でない (すべての j に対して $c_j \neq 0$ ではない) 係数について成り立つならば, そのときベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$ は線形従属であるという.

線形従属でない (すべての j に対して $c_j = 0$ である時のみ成り立つ) 場合に, ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$ は線形独立であるという.

4. 正方行列の固有値の性質

(証明については Appendix.mlx を見よ.)

4-1. $n \times n$ 正方行列 A が n 個の線形独立な固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$ を持つならば, A は対角化可能である.

4-2. 実対称行列の固有値は実数である.

4-3. 実対称行列の異なる固有値に対応する固有ベクトルは直交する.